



# のぞみ 希望

学校ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/sugita/> TEL771-0649

胸を張り、スタート！

副校長 鈴木 和枝

「夢なんてなくてもいい」

夢をもつこと、夢を追いかけることがよしと教えられてきた自分、そしてそう信じてきた自分にとって、この夏出会ったこの言葉は大変衝撃的でした。

それは、今年度の「NHK 全国学校音楽コンクール小学校の部」の課題曲「いまだよ」（宮下奈都作詞 信長貴富作曲）の歌詞の一節でした。この度、神奈川県大会の各校の演奏を聴かせていただく機会に恵まれたのですが、楽曲のメッセージを歌声に乗せてまっすぐに表現する子どもたちの姿には大変心を打たれました。コンクールには毎年テーマがあり、今年度のそれが「夢」でした。なのに課題曲の歌詞が「夢なんてなくてもいい」・・・なのです。

さて、作詞家の宮下奈都さんは、この歌の演奏に携わる全ての人たちに向け次のようなメッセージを送っています。

私には「夢」というものがよくわかりません。わからないまま、少し居心地が悪いまま、ずっと考えてきました。もしかして、それがあれば生きる勇気が湧いてくるもの、でしょうか。笑顔になれるもの、がんばれるもの、強くなれる、やさしくなれるもの・・・そうか、それなら夢なんてなくてもいいんだ。そう思えたときにやっとすなおになれた気がします。夢があったらすばらしいけれど、夢がわからなくてもあせらなくていい。代わりに、希望があったり、愛があったり、情熱があったりするのではないかと思うのです。夢を持っても持たなくても、あなたはあなたらしく、胸を張って生きていってほしい。（中略）歌うあなたに届きますように、誇りを持って歌ってくださいように。（後略）

（「Nコン2017 課題曲紹介」より 抜粋）

「いまだよ」は、流れゆく心地よい風の中を歩いているような爽やかな気持ちにさせてくれる曲なのですが、次のような言葉でその音楽はしめくられています。

顔を上げて風に手をふろう ここからはじめよう 夢なんてなくてもいい こわくない 行こう

いまだよ、いま

何校もの演奏を聴いているうちに「夢なんてなくてもいい」という一節に受けた「そんなこと言ってしまっているの？」という戸惑いにも似た感情は薄らぎ、「この詩はこの曲を歌う子どもたち一人ひとりのかけがえのない『生』に向けたエールなのだ」と思ってきたのでした。

しばらくして、ある学校に通うペルー国籍の6年生の児童についての話を聞きました。4年生でペルーから日本に転居したその子は、異国での暮らしや学校生活に馴染めず、勉強や運動、友達との関わりに対して無気力な様子がありました。ところが6年生となった今年、年の離れた姉の帰国に合わせ帰国するかを尋ねられ、その子は「私は日本が好き。日本の学校が好き。だから、これからも日本で生きていく。」と答えたそうなのです。以前のその子からは到底想像もできない言葉に周りの人たちは心底驚いたということでした。1年半をかけて、周囲の環境を受け入れ切れない自分と向き合い、葛藤しながらも一つひとつの課題を乗り越えていく中で変わっていった自分を感じることで「ありのままの唯一無二の自分」を受け入れることができた・・・この話を聞いて、そんなことを思いました。

この夏、ある場面で偶然目にした彼女は、夏の太陽に負けない眩しい笑顔を輝かせていました。人は自分を心から受け入れられたときに、自信や希望、ひいては夢といったものを抱くことができるのだと彼女から学んだ夏でした。

学校生活の再スタートに際し、子どもたち一人ひとりに唯一無二の自分に胸を張ってほしい、自分に自信や誇りをもってほしい、そういう思いでいっぱいです。最後になりましたが、今年の夏はこれまでの常識が覆されるような大雨による被害、各地での催し物への影響が相次ぎました。被災された方々、お身内にご関係の方がいらっしゃる方におかれましては心よりお見舞いを申し上げますと共に、一日も早く「日常」が戻られますようにとお祈りしております。